

## 学生による学び支援 —Ways Café-ぶちの企画・開催を通して—

光宗 榮<sup>1)</sup>、高木美和<sup>1)</sup>、野勢祐樹<sup>1)</sup>、井上由香理<sup>1)</sup>、阿部美咲<sup>1)</sup>、吉田 博<sup>2)</sup>

1) 徳島大学総合科学部 2) 徳島大学大学開放実践センター

### 1. はじめに

近年、社会の多様化に伴い、大学での学びに興味を見いだせない学生が増加しつつあることが危惧されている。このような現状を踏まえ、文部科学省（2008）では、学士力の提唱、学士課程教育の見直し、教職員の職能開発などが掲げられている。現在の我が国の大学においては、教育力の向上が重要となることは明らかであるが、学生自身が自らの学びの意義を考え直すことも必要であると考え。徳島大学の学生による学生支援チーム Ways! は、大学生の充実した学習・研究活動を実現するために、日常的な学びを、教職員とともに学生視点からアシストすることを理念として、日々の活動を行っている。これまでに、履修相談会の実施、部局と共催という形で部局FDに携わる活動を行ってきたが、学生自らが自身の大学での学びを見つめなおす場を提供することも意義があると考え。そこで、大学での学びをテーマとし、学生が自らの学びを考える場として「Ways Café-ぶち（以下、本企画）」を企画、開催した。本発表は、これまでに実施した本企画の取り組みの様子や、参加者アンケートの結果から、本企画が徳島大学の学生及び、教職員にどのような効果をもたらすことができたのか考察する。本発表が今後の学生の学び支援の端緒なることを期待したい。

### 2. Ways Café-ぶちとは

本企画の目的は、①立場の違った人の意見に触れることによって視野を広げるとともに、交流の輪を広げること、②大学生が大学における充実した学びを実現するためのヒントを得ることの2点である。対象は学生、教職員、社会人と幅広く設定し、5人程度で1つのグループを作り、各グ

ループにホスト（進行役）の学生を1人ずつ配置して、テーマに沿って話を進めていく。その際に参加者は、模造紙に意見や気付いたこと、感じたことなどを、文字や絵、概念図などで自由に書き込みながら議論を行う。議論は前後半約25分ずつの計2回に分かれており、前半終了後に参加者は「旅」を行う。「旅」とは他のグループの模造紙に書かれたものを確認しながら、情報を共有するというものである。議論終了後にはグループごとに、そのグループで話し合った内容の発表及び質疑応答を行い、参加者全員で共有する。本企画は、大学生の学びに関するものとして、第1回目（10/27）は「総合科学って何ですか?」、第2回目（11/10）は「文系・理系と呼ばれて・・・」、第3回目（11/17）は「授業評価アンケートの有意性について」、第4・5回目（12/8・22）は「学士力」というテーマで実施した。

### 3. Ways Café-ぶちの様子

第1回目は学生8名、教員3名の11名（企画者を含む）が参加した。開始時は発言が少なく、沈黙していた参加者も見受けられたが、話が進むにつれ、積極的な発言や模造紙への書き込みが見られるようになった。参加者は、自身の入学前と入学後の総合科学のイメージの違いや、総合科学を学ぶ必要性など、様々な観点から総合科学について話し合っていた。また、話が広がり、文系理系の存在意義や総合科学を学んだ後の将来について熱く発言するなど、各グループともに深い議論が行われた。

第2回目は学生12名、教員3名、社会人1名の16名（企画者を含む）が参加した。第2回目では、各グループの机の配置や模造紙の利用を工夫するなど、より話しやすい雰囲気作りに努めた。

そのため、参加者は開始直後から積極的にペンを持って、模造紙に文字や図などを書き込んだり、意見を述べ合っていた。前半は文系理系の違いやこれまでに感じてきた文系理系の区別に対する、それぞれの思いなどが語られた。また、後半は各グループとも理想の学校教育・学校像についての議論が行われ、発表時には各グループが思い描く、ユニークな学校像・教育カリキュラムが紹介された。難しいテーマであるにもかかわらず、時折笑い声が聞こえるなど、終始非常によい雰囲気での議論が行われた（図1）。

#### 4. 結果と考察

本企画では毎回、参加者アンケートを実施している。これまでに第1回目では企画者を除く6名、第2回目では企画者を除く11名の、合計17名から回答を得た。まず「本企画は楽しかったですか？」（5件法）という設問に対して、8名がとても楽しかった、9名が楽しかったと回答している（図2）。この結果から本企画は参加者に好評を得ていると言える。次に「自分の学びを見つめるきっかけになりましたか？」（2件法）という設問では、12名が「はい」と回答した。また、「自分の視野は広がったと思いますか？」（2件法）という設問では14名が「はい」と回答した。このような結果から、本企画は参加者にとって、自身の視野を広げたり、立場をこえた交流を図るきっかけの場となったことが伺える。さらに、本企画の良かった点として「模造紙を使いながら話しやすい」、「意見が出しやすい雰囲気はすごく良かったです」、「話がつまるのではないかと不安でしたがどんどん進んで時間を忘れるほどでした!」といった意見も寄せられた。このことから、参加者が話しやすい雰囲気の中で模造紙をうまく使いながら、与えられたテーマについて深く議論できていたことが分かる。一方で、改善点も明らかになった。アンケートでは「話し合う論点をもう少し絞ったら良かったかも?」や「時間が足りない」といったような意見が挙げられた。このような結果を踏まえて、第3回目では同じ時間内でより深い議論ができるように、予め絞った論点を提

示し議論していくこととした。Ways!では、企画終了後に毎回ミーティングを実施しており、改善点や改善策を検討し、次回の企画に活かしている。本企画は、立場を超えた交流を実現し、参加者の視野を広げることににおいては、一定の成果を上げているといえよう。しかし、参加者にとって大学での充実した学びを実現するためのヒントを得ることができているとは言い難い。本企画は、今後も継続して実施していく予定であるため、学生が学ぶことの意義を考える場としても機能するよう、今後はさらなる改良を行っていく必要がある。



図1 Ways Café-ぶちの様子

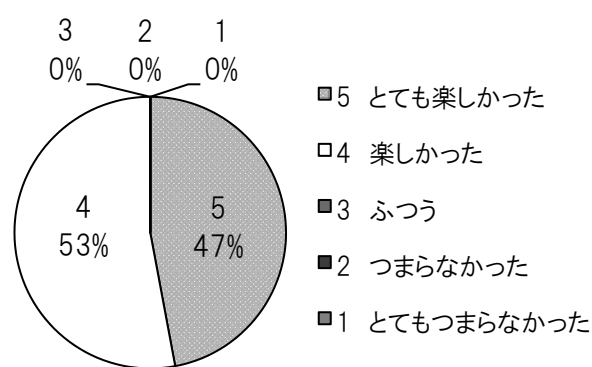


図2 Ways Café-ぶちは楽しかったですか?

#### 参考文献・資料

- 1) 文部科学省：学士課程の構築に向けて，中央教育審議会答申，2008
- 2) 浦邊研太郎，光宗 榮，福島沙奈，吉田 博：学生による徳大生の正課外活動支援，平成23年度大学教育カンファレンス in 徳島，発表抄録集，34-35，2011